

2025年3月28日

「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展の
会場構成ならびに ミース・ファン・デル・ローエの
未完の「ロー・ハウス（1931）」プロジェクトの原寸大での実現について

【概要】

奈良女子大学工学部 長田直之教授は、2025年3月19日に国立新美術館で開催した「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展の会場構成、およびミース・ファン・デル・ローエの未完の「ロー・ハウス（1931）」プロジェクトの原寸大模型のデザインを担当しました。

【内容】

本展覧会は、20世紀に始まった住宅をめぐる革新的な試みを、「衛生」「素材」「窓」「キッチン」「調度」「メディア」「ランドスケープ」という7つの観点から再考します。特に、傑作14邸に焦点を当て、写真や図面、スケッチ、模型、家具、テキスタイル、食器、雑誌、グラフィックなどを通じて、多角的にその実験的な側面を検証します。



1E会場

入口すぐのル・コルビュジエのヴィラ・ル・ラクのモックアップから会場全体を眺める

【会場構成について】

企画展示室 1E（約 2,000 m² / 34.2m×59.5m / 天井高 5m）では、14 の住宅を「島」に見立て、それぞれのテーブル上に展示を展開しています。来場者はテーブルを一周することで、各住宅の特徴や建築家の意図を理解できます。一方、7つのストラテジー（観点）は、住宅をつなぐ「海」のようなエリアとして配置され、順路に縛られることなく自由に鑑賞できる構成となっています。

また、展示空間のデザインには、モダニズム建築の空間体験を意識し、オープンプランの概念を取り入れました。各セクションは有機的につながり、流動的かつ直感的な動線計画が施されています。これにより、来場者がモダニズム建築の思想と実践をより深く体感できる場となっています。



1E 会場風景

【ミースのロー・ハウス 1931 原寸実現】

企画展示室 2E（約 2,000 m² / 34.2m×59.5m / 天井高 8m）では、ミース・ファン・デル・ローエの未完のプロジェクト「ロー・ハウス（1931）」を原寸大で実現しました。ミースは 1930 年代のドイツで、中庭のある住宅（コートハウス）を複数構想しており、その一つである「ロー・ハウス（1931）」を、残された図面や他の建築作品を参照しつつ実施図面を作成し、実現しています。



1E会場 ミース・ファン・デル・ローエ「ロー・ハウス（1931）」原寸大模型 展示風景



照明は6分30秒周期で色が変わり、朝、夕方、夜と1日の光の移ろいを表現している

本プロジェクトを通じて、モダニズム建築の思想が現代の建築や都市計画に与えた影響を考察し、未来の住まいの可能性を模索する場となることを期待しています。

【本件に関するお問い合わせ】

奈良女子大学工学部

長田直之研究室 長田直之

E-mail : nagata@cc.nara-wu.ac.jp

【展覧会情報】

リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s

会期：2025年3月19日（水）-6月30日（月）

会場：国立新美術館 企画展示室 1E/2E（東京・六本木）

主催：国立新美術館、東京新聞、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

（機関窓口）

奈良女子大学 総務課 広報・基金係

TEL 0742-20-3220

Email : somu02@jimu.nara-wu.ac.jp